

平成29年度
盛岡医療福祉専門学校
自己点検・評価委員会結果報告書

平成30年3月

平成29年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館盛岡医療福祉専門学校の自己点検・評価結果を公表いたします。

平成30年3月30日

学校法人 龍澤学館
理事長 龍澤 正美

自己点検・自己評価実施日 2018年3月30日(金)

1. 学校の教育目標

- 1 専門分野の知識と技術を正確に習得する
- 2 社会人としてのマナーを体得・実践する
- 3 生命に対する尊厳を養い、真の優しさを身につける

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1 学生評価、アクティブラーニング、およびルーブリック評価の実施。
- 2 退学者(率)の防止と減少について、継続して取り組む。退学率3%以下を目標とする。
- 3 卒業生を対象としたセミナー、意見交換会の全学科実施に向けて継続して取り組む。
- 4 業界の経営者団体、職能団体等と実習のみならず、インターン、学費支援の連携を強化する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	3
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向け て方向づけられているか	4
課題	学校の理念、人材育成像について、目標の教室への掲示、それに基づいた学生個々人の目標設定などを通じて周知、徹底が行われてきている。保護者に対しても、保護者ガイダンス、就職セミナー等を通じ、それらを継続して伝えている。また、本年度はアドミッションポリシーを作成し、入学希望者のモチベーションを上げる取り組みを行った。ただ、カリキュラムポリシーの作成が課題として残っている。	
改善策	シラバス縮刷版の作成を行い、30年度末までにカリキュラムポリシー及びカリキュラムロードマップの第一案作成を目指す。また、地域に貢献する機関として、継続して業界団体との連携を取り、教育の質向上に取り組んでいく。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に 機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2
課題	事業計画に基づく適切な学校運営を行っている。一方、教育の質の見える化、及び、業務効率化については課題を残している。	
改善策	カリキュラムロードマップを作成し、HP等で公開することで教育カリキュラムの可視化を行っていく。また、グループ全体で情報システムの効率化を推し進めていく。	

(3)教育活動

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
課題	学生評価、ルーブリック評価を活用し、より質の高い教育活動に学校全体として取り組めた。公開授業を実施することで、教育の質の高さを外部にアピールする機会を設け、教員の意識向上を図った。一方、非常勤講師担当科目も含め主体的に学ぶ授業の確立へ向け課題も残っている。	
改善策	IPE等学校全体で主体的な学びを主眼とした授業を新設する。また、教務力の高さの外部発信、及び職員の意識向上を目的とした学校公開を実施する。	

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
課題	<p>これまでと同様、高い就職内定率を達成した。また、スクールカウンセラーの人員を増やし、毎週相談室を実施、また、昨年度同様カウンセラーによる授業、講演を取り入れ、退学及び早期退職を防ぐ試みを行った。社会福祉士通信コース受講生の国家試験合格率も昨年度同様全国トップクラスの成果を上げた。介護福祉士の国家試験実施初年度ということで、初めて国試対策を行った。</p> <p>退学者に関しては、学校一丸となつての取り組みが奏功し、低い数値で終わった。一方、卒後教育などで卒業生の卒業後の動向を把握するように努めているが、正確な動向をつかむための一層の工夫が継続して必要である。介護福祉士の国家試験対策については、初年度ということもありまだ課題が残っており、さらに合格率を上げる工夫が必要である。</p>	
改善策	<p>退学者防止については、職員間の連携をさらに強めるため、職員室の一元化を行う。また、卒業生へのフォローアップについては、各科の事情に合わせつつ、卒業生と学校、及び卒業生通しが情報交換できる場所をさらに増やしていく。</p>	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
課題	<p>経済的支援体制については、昨年度から引き続きグループ全体での経済支援を加え充実させている。保護者との連携については、保護者が参加できる企画を増やし、学校へ対する理解を深める機会を提供した。通信教育部へは、変わらず卒業生の受講があり、卒後教育の一環として機能している。カウンセリングの体制も一層充実させ、日常的な悩み事や就職に対する不安を払しょくする仕組みがよりしっかりしたものとなってきた。</p> <p>一方、卒業生へのフォローアップの充実、及び相談室の利用者が固定されがちである、といった課題も残っている。</p>	
改善策	<p>相談室利用の周知、卒業生への支援体制の充実、および、保護者との連携について、継続して充実させていく。</p>	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
課題	設置基準に従った十分な整備を行っている。一方、経年劣化による改修が必要な部分がある。また、防災については、個々人の意識向上も含め、啓もう活動にさらなる改善の余地がある。	
改善策	継続して行っているが、改修が必要な部分に関しては、随時整備していく。また、防災意識の向上については、避難訓練の事前事後指導を徹底するなど、継続して取り組んでいく。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
課題	広報活動のさらなる改善、および、教務との緊密な連携により、入学者の減少は最小限で抑えられた。一方、いまだ介護離れ福祉離れの傾向が続いており、福祉業界で働くメリット等を広げていく啓もう活動は、まだまだ求められると思われる。	
改善策	介護分野を中心に、福祉分野全般についての啓もう活動を展開し、生徒のみならず、保護者、高校教員、および社会人についても、医療・福祉分野で働くことの社会的意義を伝えていく。小中学生、保護者向けの仕事の体験会等を実施する。また、本校の教務内容を熟知した上での広報活動をなお一層充実させていく。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題	—	
改善策	法人本部で適正に管理・実行しており、財務情報についてはすでにホームページで情報公開している。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
課題	法令等適切に遵守し、運営を行っている。個人情報保護については継続して教職員の意識向上を怠りなく徹底していく。	
改善策	第三者評価の実施に向け、継続して仕組み作りをグループ全体で構築していく。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
課題	本校の強みである、地域貢献、ボランティアは、継続して盛んに行っている。一方で、ここ数年継続して行ってきた被災地活動については、現場の状況の変化に見合った新たな展開が必要と思われる。	
改善策	地域ニーズを関連団体等の連携により収集し、よりきめ細やかな支援を展開していく。	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校関係者評価委員会、及び、教育課程編成委員会における提言を教育活動の改善につなげる仕組みがより一層充実してきており、教育の質の向上につながってきている。また、学生授業評価、ルーブリック評価を継続して行い、学生の状況をよりの確に把握し、満足度の高い教育活動へとさらにステップアップした。学生募集に関しては、福祉分野の底上げ活動を取り入れながら行ってきた成果が、昨年同様見られる年となった。地域貢献活動は、回数・内容ともに充実している。一方、地域に貢献できる機関として成長するため、地域や関連団体との連携をさらに強化していく必要がある。教育の質に関しては、新たな取り組みを取り入れながら、継続して向上していくよう取り組んでいく必要がある。より効率的な事務処理システムの構築、経年劣化による施設の回収等は順次進めていくという課題への対応も必要である。

平成 29 年度

盛岡医療福祉専門学校

学校関係者評価委員会結果報告書

盛岡医療福祉専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

開催日：平成 30 年 9 月 3 日（月） 15：30～17：00 於 盛岡医療福祉専門学校

1. 出席者

委員長	特定非営利活動法人 輝け「いのち」ネットワーク	代表	高橋 典成
副委員長	株式会社システムエイド	常務取締役	中舘 勝寿 (欠席・委任)
外部委員	社会福祉法人堤福祉会 ゆーらっふ	施設長	北田 奈穂美
外部委員	社会福祉法人盛岡ひまわり会 盛南ひまわり保育園	園長	高橋 敦子
外部委員	医療法人楽山会 はまゆり在宅介護福祉センター	卒業生	鳩岡 貴士
委員	盛岡医療福祉専門学校	副校長	菊池 裕生
委員	盛岡医療福祉専門学校	通信教育部部長	高橋 正之
書記	盛岡医療福祉専門学校	業務部	川原 裕子

2. 委員会次第（概要）

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 状況報告
 - ・ 昨年度就職状況について
 - ・ 入学者の状況について
 - ・ 教務関連について
- (4) 平成 29 年度自己点検・評価報告
- (5) 討議・意見交換
- (6) 閉会

3. 討議・意見交換について

昨年度の就職実績、今年度の入学者状況（昼間部・通信教育部）の報告後「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえて作成した評価項目による自己点検・評価の結果について、評価項目ごとに達成状況や取り組み状況、改善策等について報告し、それに対し外部委員の皆様からの質疑応答、意見交換を行った。

(1) 教育理念・目標について

『社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか』の項目について外国人の受入れや社会福祉士通信教育コース（リカレント教育）を行っていることを挙げ「ほぼ適切」から「適切」に評価を上げたことを説明した。また、今後の課題、改善策について報告し、外部委員より了承いただいた。

(2) 学校運営について

『人事、給与に関する規定等は整備されているか』の項目について法人本部に確認した結果「ほぼ適切」から「適切」に評価を上げた。また、『情報システム化等による業務の効率化が図られているか』の項目が、「不適切」のままであることについて、法人全体で情報システムの共有化、効率化の構築を進めている途中であることを報告し、外部委員より了承いただいた。

(3) 教育活動について

評価結果に変更はなく、より質の高い教育活動を継続していくためIPE等（多職種連携教育）を学校全体で行っていることまた、教務力の向上、外部発信を目的に来年1月に学校公開を予定していることを報告し、外部委員より了承いただいた。

(4) 学修成果について

『資格取得率の向上が図られているか』の項目について、社会福祉士通信教育コース受講生の国家試験合格率が全国トップクラスだったことにより「やや適切」から「ほぼ適切」に評価を上げたことを報告した。『退学率の低減が図られているか』の項目については、目標数値を達成できずに評価結果は「やや適切」から改善されなかった点について理由は様々であるが経済状況等やむを得ない理由であったこと、また、退学者防止対策を専門学校グループで検討していることを報告した。

委員より、「介護福祉士国家試験の受験者を制限しているか」との質問があり、本校では、任意であるが全員受験していることを説明した。今後も、受験者を制限することなく希望者には受験させてほしいし試験対策等も積極的に開催して欲しいとの意見が出され、学校としては、現状のまま制限しない方向である旨をお伝えした。

通信生と昼間生との関りについて質問が出され、通信生と昼間生との関りは特になが卒業生が社会人になり社会福祉士の必要性を感じ通信コースに入学するケースが増えている点を伝えた。今後は、施設と学校が連携し資格取得支援や離職者を抑制する対応をとっていくことを課題とするとお伝えし、外部委員より了承いただいた。

(5) 学生支援について

『保護者との適切に連携しているか』の項目について、様々な機会に保護者に学校の理念等を伝え学校への理解を深める機会を提供できたことを理由に「やや不適切」から「ほぼ適切」に評価を上げたことを報告し、外部委員より了承いただいた。

(6) 教育環境について

改修箇所が多い場合は、年次計画を立て計画的に改修していく必要があるのではないかと
との意見が外部委員から出された。

また、防災のみならず自然災害（台風・水害）に対する正しい判断や知識を持ち卒業後は
避難させる立場になること、命を守る意識を常に持つことを学生に伝えて欲しいと外部委
員より意見があり今後の課題とすることをお伝えし、外部委員より了承いただいた。

(7) 学生の受け入れ募集について

オープンキャンパスへの参加者は例年どおりの人数であり、30年度1月に予定している
学校公開で福祉の仕事に対する理解を深めてもらいたいと考えていると報告し、外部委員
より了承いただいた。

(8) 財務について

財務に関する自己点検・評価の結果に関して特に問題は無く、外部委員より了承をいた
だいた。

(9) 法令遵守について

法令遵守に関してはとくに無く、外部委員より了承をいただいた。

(10) 社会貢献・地域貢献について

震災から7年経つが、被災地ではまだまだボランティアを必要としている。地域の人た
ちと一緒に支援することで学校の宣伝効果にもなるので、地域貢献として地元の人
たちを支援してほしいと外部委員から意見が出された。

被災地の要望を聞き適切な社会貢献・地域貢献を今後も引き続き活動していくことで外
部委員より了解をいただいた。

3. まとめ

専門分野の知識を活かし学校自体が地域貢献できる学校になればよいと考えている。
県内で活躍している卒業生と連携し学校としての役割をもっと広げていけるよう外部委員
の皆さまと一緒により良い学校づくりをしていきたいと述べ閉会とした。

以上